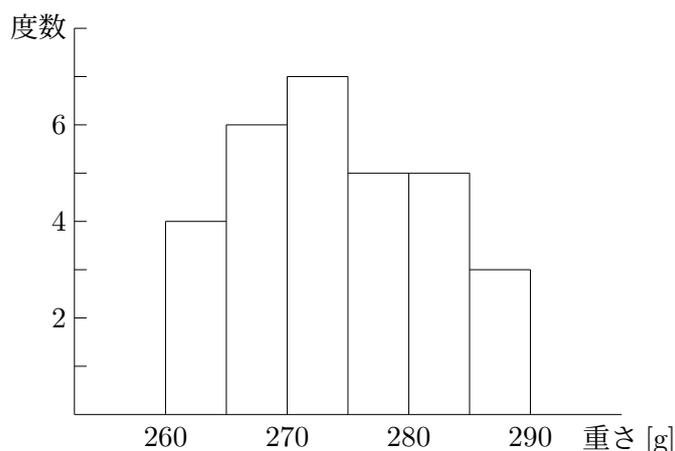


# 解答例

## 2.1 節

問1 データ数は  $n = 30$  なので、スタージェスの公式より  $k = 5.90 \dots$  となる。データを見ると、最小値が 260、最大値が 285 である。そこで、これらの差を  $k = 5.90 \dots$  の近似値である 6 で割ると、 $(285/260)/6 = 4.16 \dots$  となるが、度数分布表やヒストグラムの見やすさを考慮して、階級の幅を 5 とする。例えば、最初の階級を 260~265 とすると、度数分布表とヒストグラムは以下のようなになる。

階級	階級値	度数	相対度数	累積度数	累積相対度数
260~265	262.5	4	0.13	4	0.13
265~270	267.5	6	0.2	10	0.33
270~275	272.5	7	0.23	17	0.57
275~280	277.5	5	0.17	22	0.73
280~285	282.5	5	0.17	27	0.90
285~290	287.5	3	0.1	30	1.00
計		30	1.00		



なお、この解答はあくまで解答例であることに注意すること。階級の幅や取り方をかえれば、異なる (正しい) 度数分布表やヒストグラムが得られる。

問2 データから平均を計算すると、 $\bar{x} = 273.6$  となる。一方、度数分布表の階級値を利用すると

$$\frac{1}{30}(262.5 \times 4 + 267.5 \times 6 + 272.5 \times 7 + 277.5 \times 5 + 282.5 \times 5 + 287.5 \times 3) = 274.2$$

となる。これらの誤差は 0.6 となり、階級の幅の半分 2.5 よりも小さくなる。なお、度数分布表は階級の決め方により異なるので、問1の解答例と異なる度数分布表を用いた場合、度数分布表を利用した平均は上記の値と異なる場合がある。

問3 調和平均を用いて計算すれば、平均時速は

$$8 \left( \frac{1}{32} + \frac{1}{25} + \frac{1}{22} + \frac{1}{27} + \frac{1}{20} + \frac{1}{26} + \frac{1}{28} + \frac{1}{30} \right)^{-1} = 25.7$$

となる。算術平均は 26.25 で、調和平均より大きい。

問 4 幾何平均を用いて計算すれば、

$$\{(1 - 0.0013) \times (1 - 0.0018) \times (1 - 0.0021) \times (1 - 0.0022)\}^{1/4} = 0.99815$$

となるので、平均増加率は  $-0.185\%$  となる。算術平均は  $-0.185\%$  となり、ほぼ同じである。ただし、四捨五入をせずに計算すれば、算術平均の方が少しだけ大きいことがわかる。

問 5 データ数は 30 なので、中央値は小さい順に並べた時の 15 番目と 16 番目の平均である。よって  $(273 + 274)/2 = 273.5$  となる。また、最も度数が大きいのは階級 270~275 なので、最頻値は 272.5 である。

問 6 このデータの平均は 171.1 であるので、平均偏差は

$$d = \frac{1}{8} \{|172.5 - 171.1| + |168.2 - 171.1| + \dots + |174.2 - 171.1|\} = 4.875$$

となる。また、分散と標準偏差は

$$S^2 = \frac{1}{8} \{(172.5 - 171.1)^2 + (168.2 - 171.1)^2 + \dots + (174.2 - 171.1)^2\} = 35.835$$

$$S = \sqrt{S^2} = 5.99$$

となる。

問 7 問 6 の解答より、

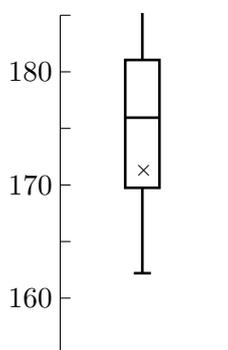
$$C.V = \frac{S}{\bar{x}} = \frac{5.99}{171.1} = 0.0350$$

となる。

問 8 平均は問 6 の解答より 171.1 である。問 6 のデータを小さい順に並べると、

160.3 165.3 168.2 171.5 172.5 174.2 176.2 180.6

となる。これより、最小値は 160.3、第 1 四分位数は  $(165.3 + 168.2)/2 = 166.75$ 、中央値は  $(171.5 + 172.5)/2 = 172.0$ 、第 3 四分位数は  $(174.2 + 176.2)/2 = 175.2$ 、最大値は 180.6 である。よって箱ひげ図は次のようになる。



問 9 偏差値の定義式を使えば、100 点と 0 点の生徒の偏差値は、

$$50 + 10 \cdot \frac{0 - 45}{17} = 23.53 \qquad 50 + 10 \cdot \frac{100 - 45}{17} = 82.35$$

となる。